

ベンチャー支援連携

沖縄公庫とOIST



賞書を交わした沖縄公庫の川上理事長（左から2人目）とOISTのピーター学長ら（23日、那覇市・沖縄振興開発金融公庫）

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）と沖縄科学技術大学院大学（OIST、ピーター・グルース学長）は23日、産学連携によるベンチャー企業の発掘と事業化に向けた協力体制に関する賞書を締結した。OISTが持つ技術や知的財産などの研究成果に対し、沖縄公庫が企業の技術ニーズをマッチングして事業発展や起業を支援する。エネルギーや化学など幅広い分野の研究成果で対応

する。資金面では沖縄公庫が成長性の高い新規ビジネスを支援する「新事業創出促進出資制度」などを充てる。

ピーター学長は「沖縄公庫との連携で企業との相互関係が強まる。人工知能（AI）やヘルスケアなどハイテク産業が伸びる」と効果を期待し、川上理事長も「県経済の活性化にはベンチャー企業がもつと必要になる」と述べた。

産学連携へ協定締結

技術の商業化へ 基盤整備目指す

OISTと沖縄公庫

沖縄科学技術大学院大学（OIST）と沖縄振興開発金融公庫は23日、「産学連携に係る協力推進に関する覚書」を締結した。OISTの研究成果と県内企業とのマッチングや出融資を通じた創業支援、OIST発のベンチャー企業の発掘などを図り、新たな技術革新（イノベーション）の創出を目指す。覚書締結によ

り、沖縄公庫とOISTは技術相談の取り次ぎや、企業への研究者の紹介などを手掛ける。

23日、那覇市の沖縄公庫で会見したOISTのピーター・グルース学長は「OISTが持つ技術の商業化に向けた基盤を構築しなければならぬ。沖縄公庫が持つ金融ノウハウと組み合わせることで、沖縄のハイテク産業を前進させるとともに、持続的成長を目指すイノベーションエコシステムを構築する」と話した。



覚書を締結したピーター・グルース学長（右から2人目）と川上好久理事長（同3人目）ら。23日、那覇市の沖縄振興開発金融公庫。